

先週の説教で見たように、エマオで復活したイエスに出会ったクレオパともう一人の弟子はイエスと数時間一緒に過ごしたのですが、旅の同伴者が復活したイエスだとわかった瞬間にイエスの姿は消えました。クレオパたちはイエスが復活したことを信じました。女性の弟子たちの証言は正しかったのです。そこで、二人はエマオからエルサレムへ戻りました。そして11人の直弟子たちと他の仲間たちと合流したのです。彼らはイエスが復活してシモンに現れたと話していたので、クレオパたちはエマオへ向かう道（おそらくは身の危険を感じての逃避行）でイエスが同伴してくださったことや、宿屋でパンを裂いてくださったときにその同伴者がイエスだとわかったことなどの出来事を仲間たちに伝え、復活したイエスが自分たちに顕現してくれたことを確認しあっていたのです。

そういう状況の中で、復活したイエスが現れて「(あなたがたに)平和があるように」と言ったのです。すでに復活したイエスに出会った弟子たちが何人もいたのですが、突然現れたイエスの姿を見て、多くの弟子たちは『恐れおののき、亡霊を見ているのだと思った』(37節)のでした。弟子の仲間たちが復活したイエスに出会った話を皆で聞いていたのに、復活者イエスを亡霊だと思ってしまったのです。ここで、わかることは、復活したイエス御自身の方から弟子たちに現れていることです。エマオへの道行きでの登場の仕方をみても、復活したイエスから弟子たちに接近しています。本日の36節以下でも、復活したイエスから能動的に現れて弟子たちに話しかけられます。弟子たちは恐れおののき、亡霊でも見ているように感じてしまいます。

そこで、イエスは『私の手や足を見なさい』(39節)と言って、肉体を持った人間であるような言い方をするので。それでも、『彼らが喜びのあまりまだ信じられず、不思議がっているのだ』(41節)イエスは焼き魚を弟子たちの前で食べられたのでした。そして、イエスは44節以下で言うのです。『わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである』(44節)。さらにイエスは旧約聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、『次のように書いてある。「メシアは苦しみを受け、三日目に死者の中から復活する。また、罪の赦しを得させる悔い改めが、その名によってあらゆる国の人々に宣べ伝えられる」と。(45〜47節)

ルカ福音書記者は、イエスの復活も、それ以後の弟子たちの宣教活動も旧約聖書の預言通りの事柄であり、神の御計画の中にあるものだということです。しかも、全世界への宣教内容は、「その名によって罪の赦しを得させる悔い改め」であるということです。イエスの宣教は「赦し(アフエシス)」または「解放く自由(アフエ

シス)だといふのです。ナザレの説教の冒頭でも「主がわたしを遣わされたのは、捕らわれている人に解放(アフエシス)を、…: 圧迫されている人を自由(アフエシス)」(ルカ4章18節)を得させるためだと明確に宣言されているとおります。

さらに45節をよく読むと、弟子たちが復活したイエスを認知するのは、手足を見せたときでも、焼き魚を食べた時でもないことが明確に示されている。つまり、復活したイエス自身からの聖書の説明によるものであることがわかります。これはエマオの弟子たちが復活者に会っても、彼を単なる旅人だと誤認したこと、復活者自ら聖書を説明されたとき、彼らの心が燃えていた(32節)ということでもわかります。復活したイエスを私たちが認知するのは、復活者を見ることによつてではなく、復活者イエスからの言葉による説明を聞き入れた時に起こることなのです。

教会は十字架と復活の主イエスをキリストとして信じる信仰を基盤にしています。そして、教会の交わりは、神の働きがどのように自分に對してなされてきたかを互いに語り合う場です。例えば、全体祈禱会はその役割を果たすものです。そのような証しの交わりの場に復活者であるイエスは立ち現れてくださるのです。しかも、それは単なる救いをもたらすためでなく、私たちの人生が神の御計画の中で、イエスの名によつて赦されて生きることによつて、人間本来の自由で開放された生き方へと招くためなのです。そして、そのような罪赦された者として、罪から解放されたものとして生きることを見分ける人とは分ち合うような生き方を選んでいくことが宣教となるのです。

そして、エマオでの顕現物語でも、本日の焼き魚を食べる場面での顕現物語でも、共通していることは、食事の席であるという点です。しかも、復活したイエスが十字架刑死以前のイエスと同一であることを印象づけているのです。ルカ福音書での復活顕現の物語はエマオと、本日のテキストです。どちらも、食事という場で起きています。なぜ、ルカ福音書はこのような食事の場を復活者の顕現の場に選ぶのでしょうか。まず、考えられることは、ルカ福音書では、十字架死以前のイエスはしばしば食事の場面で大きな出来事に出会っている。徴税人が招く盛大な宴会にイエスは出席して人々は驚きます(5章27節以下)。また、遊女に罪の赦しを宣言する場も食席です(7章36節以下)。ファリサイ派批判も食席でした(11章37節以下)。神の国の祝宴のたとえも食席(14章11〜24節)です。このように、食事というのは、人間の生命を保存させ、生命力を与えるものです。キリストの復活は、単に自分が永遠の命を与えられる出来事を補償しているだけでなく、すべての人の生命の導き手であるキリストによつて生かされ、生命の源なる神に立ち返らせる日常生活をもたらすためにものなのです。復活のキリストの贖いに感謝して、この一週も歩んでいきたいと思ひます。

